

先週の礼拝メッセージ(2021年8月29日) ゆりこ牧師

「わたしも罪に定めない」ヨハネ8:1-11

今朝も紙芝居を用いて、みことばに聞いていきましょう。
イスラエルに、姦淫の罪を犯している一人の女の人がありました。ところが、ある日、その女の人が捕まってしまいました。聖書の教えに反していることをしている女の人を罰するためです。

律法学者やパリサイ人といった、聖書の律法に精通している人たちは、女の人を捕まえて、神殿のイエス様のところに連れてきました。そして、たくさんの人が見ている前に、ポーンと放り出したのです。そして、イエス様に、「あなたならどうしますか」と迫りました。

律法ではこういう人は石打ちの刑に処するのです。イエス様が、もし、女を赦せと言え、お前は律法を破るのか、神の教えに背くのか、と言って糾弾し、もし、女を石で打ち殺せと言え、お前はいつも、愛だ愛だと言いながら、この女を見殺しにするのか、そう言って責めることができる。赦しても、赦さなくても、イエス様は窮地に追い込まれるのです。

さて、イエス様は何ておっしゃったでしょう。赦せ、とおっしゃったでしょうか。石で打ち殺せとおっしゃったでしょうか。イエス様は、とても不思議なことをおっしゃいました。「あなたたちの中で、罪を犯したことの無いものが、まず、この女に石を投げなさい」(7節)

罪のない人なんているのでしょうか。そこにいた人たちはどう思ったでしょう。聖書をたくさん勉強し、私はこの女よりきよいと思っていた人たちは、どう思ったでしょう。

なんと、1人去り、2人去り、その場から誰もいなくなりました。そこに残ったのは、女の人とイエス様だけでした。イエス様は女の人に「婦人よ、あの人たちどこにいますか。誰もあなたを罪に定めなかったのか」と聞かれました。

女の方は「主よ、誰も」と答えました。殺されると思って震えていた女の方は、命が助けられ、イエス様が主、救い主だと信じたのです。



そして、イエス様は女の人におっしゃいました。

「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからはもう罪を犯してはならない」

女の方はその後どうなったのか、それは聖書には書いていません。でも、イエス様を信じて罪を赦され、命が助かった女の方は、きっと罪から離れて、今までとは違った、イエス様を信じる毎日を送ったことでしょう。



このお話を2つの方向から考えてみましょう。

一つは、私が律法学者、パリサイ人だったら。

私は洗礼を受けて、聖書も読んで、お祈りもするし、教会の礼拝にもちゃんと出てる、だから聖いんですか? いいえ、私は罪を犯してしまうような弱い人です。でも、イエス様が十字架で、私の罪を赦してくれたので、私は赦されて神のこどもとされているのです。だったら、誰かを罪に定めて、裁くことなんてできるはずがありません。

この律法学者もパリサイ人も、イエス様ごめんなさい、と言っていたら、トボトボと帰ることはなかったでしょう。

もう一つは、私がこの女の人だったら。

女の方はイエス様と出会う前は、罪がわかりませんでした。誰かに愛されたい、認めてもらいたいと思っていたのかもかもしれません。でも、イエス様と出会って、自分を殺そうとしている人たちに、イエス様が「今まで罪を犯していない者が石を投げよ」とおっしゃるのを聞いて、女の方はイエス様の愛と、罪の重さに気がついたのです。

そして、ほんとなら、罪のないイエス様こそが女の人に石を投げるのができたのに、イエス様は「私もあなたを罪に定めない」といって、赦してくださいました。どんなに嬉しかったことでしょう。

イエス様はこの女の方の罪も、私たちの罪も全部引き受けてくださって、十字架の上で死んでくださいました。私たちたちの罪は赦されたのです。

罪が赦される、これがどんなに大きな恵みなのか、死刑になるはずの女の方が生きて、地獄に行くはずの私たちが天の御国に行くことができます。今も、イエス様のもとに行くなら、「私もあなたを罪に定めない。安心していきなさい」とイエス様は声をかけてくださいます。

今日あなたがどんな罪を持っていたとしても、イエス様はその罪の罰を既に十字架の上で受けて死んでくださり、赦しを与えてくださっているのです。イエス様のもとに行きましょう。そして、イエス様の十字架の血潮に感謝しましょう。